

宮村連合区 地域カルテ

<行政区>

宮村 1 区

宮村 2 区

宮村 3 区

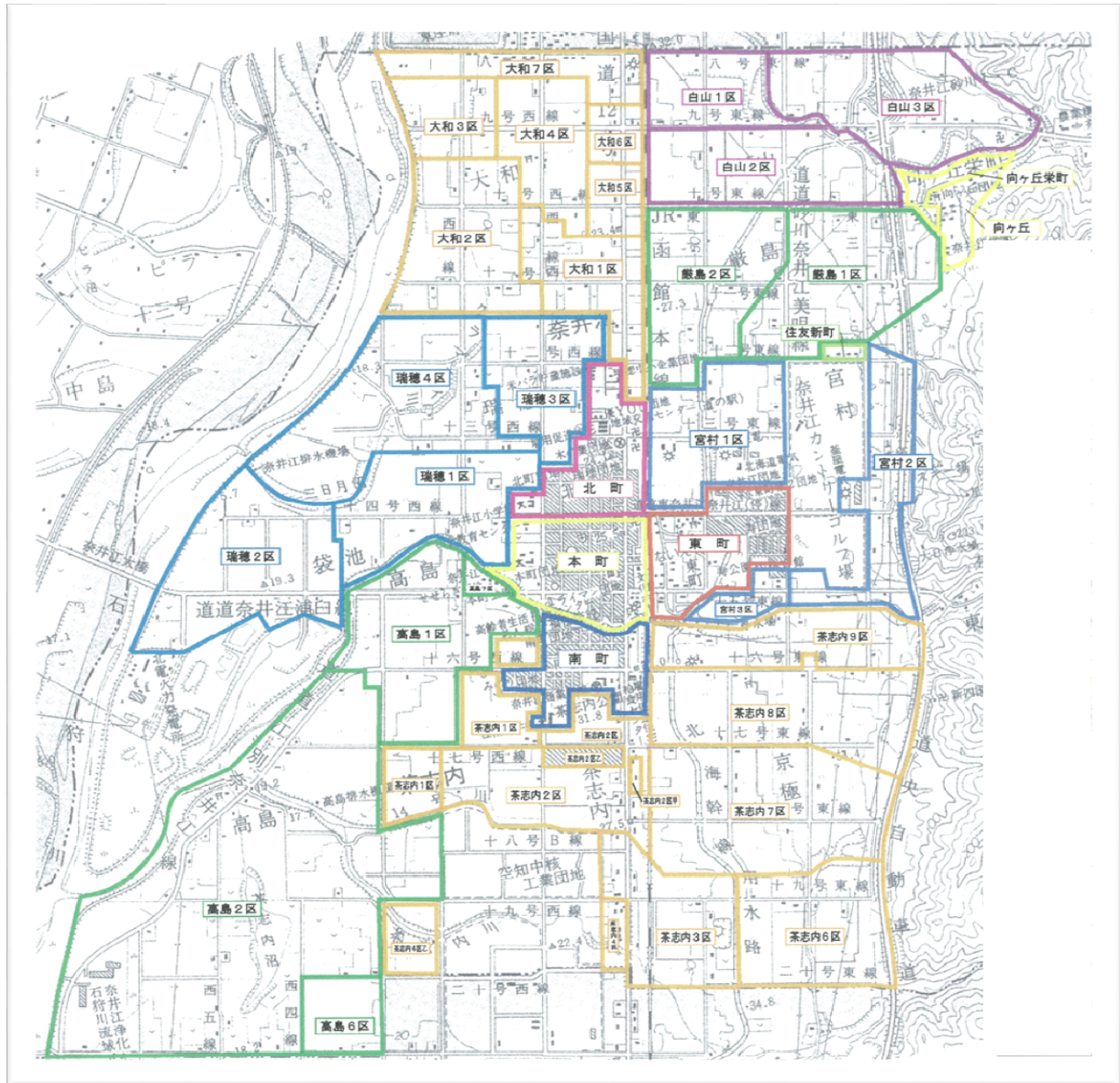
奈井江町

令和 4 年 3 月

目次

1	地区の所在	．．．．．	P2
2	地区の基礎データ	．．．．．	P3 ～ P4
3	地域の活動情報	．．．．．	P5 ～ P7
4	地域の状況・課題	．．．．．	P8 ～ P10

1 地区の所在



2 地区の基礎データ

●人口・世帯数推移

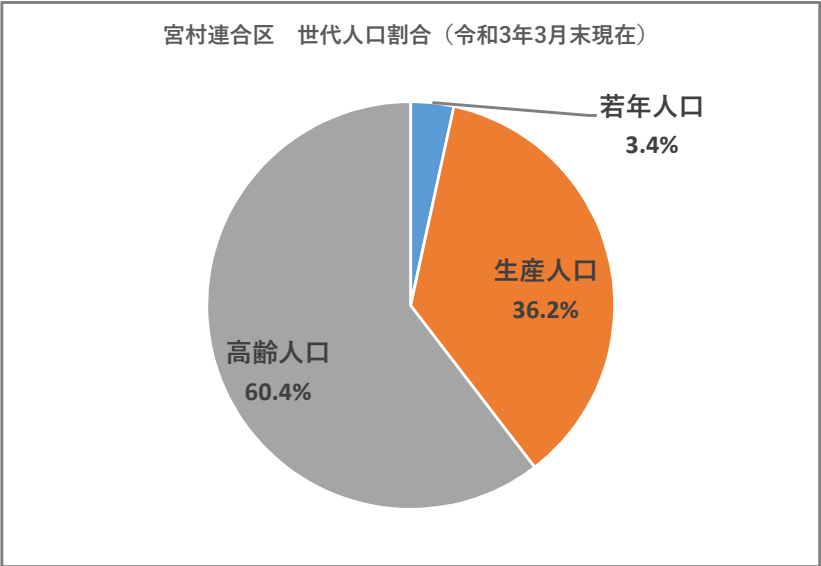
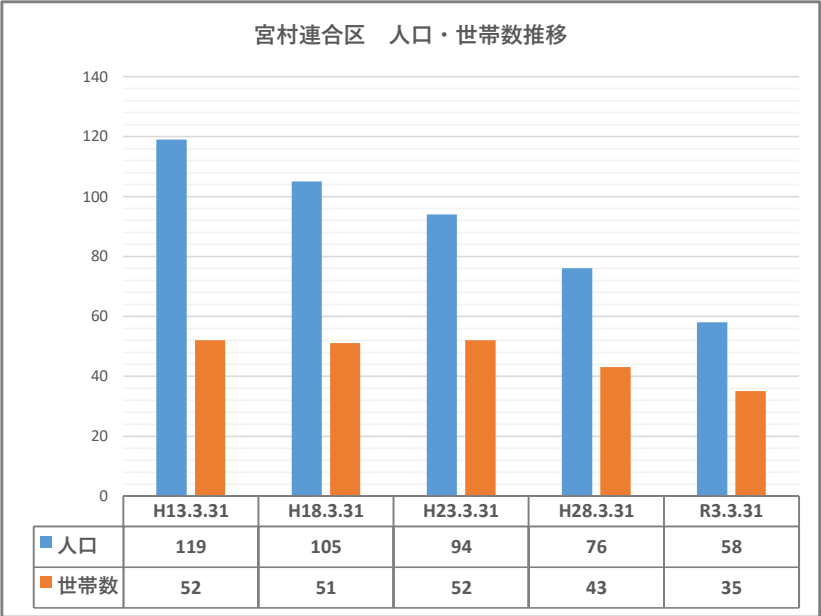
行政区名	区分	H13.3.31	H18.3.31	H23.3.31	H28.3.31	R3.3.31
奈井江町	人口	7,490	6,926	6,274	5,698	5,191
	世帯数	3,134	3,056	3,003	2,894	2,746
宮村連合区	人口	119	105	94	76	58
	世帯数	52	51	52	43	35
宮村1区	人口	41	34	35	24	20
	世帯数	17	17	18	13	10
宮村2区	人口	24	22	17	12	8
	世帯数	12	12	13	8	5
宮村3区	人口	54	49	42	40	30
	世帯数	23	22	21	22	20

参考) 住民基本台帳 3月末現在

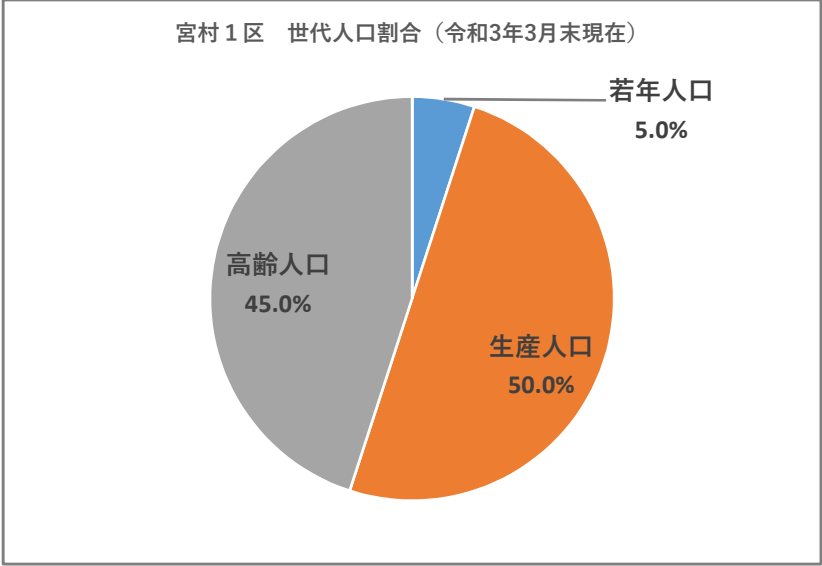
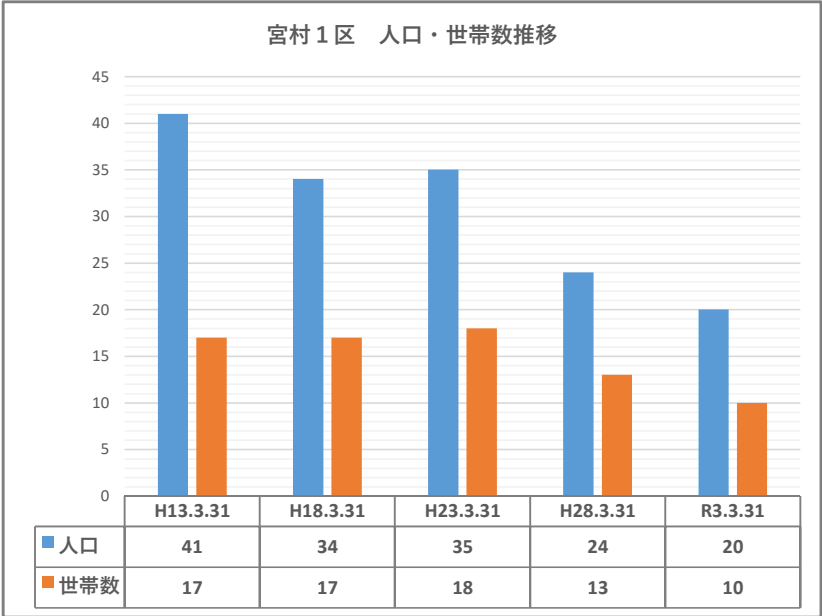
●世代人口割合（令和3年3月末現在）

行政区名	区分	若年人口 (0-14歳)	生産人口 (15-64歳)	高齢人口 (65歳以上)	計
奈井江町	人口	437	2,570	2,184	5,191
	割合(%)	8.4	49.5	42.1	-
宮村連合区	人口	2	21	35	58
	割合(%)	3.4	36.2	60.4	-
宮村1区	人口	1	10	9	20
	割合(%)	5	50	45	-
宮村2区	人口	0	1	7	8
	割合(%)	0	12.5	87.5	-
宮村3区	人口	1	10	19	30
	割合(%)	3.3	33.3	63.4	-

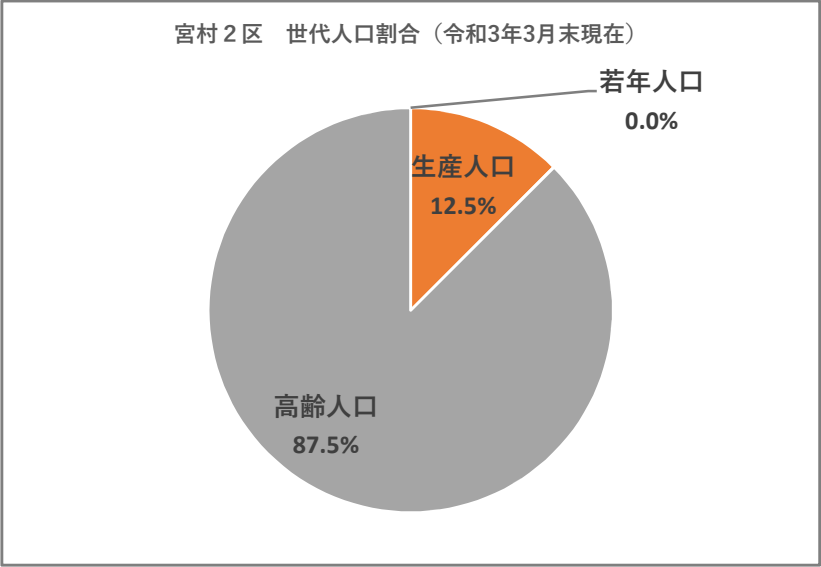
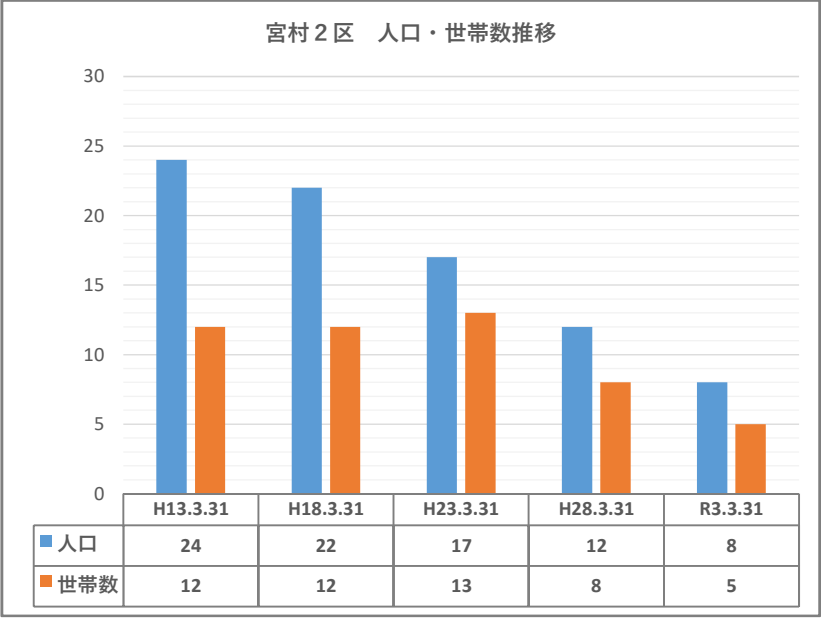
宮村連合区 人口関連グラフ



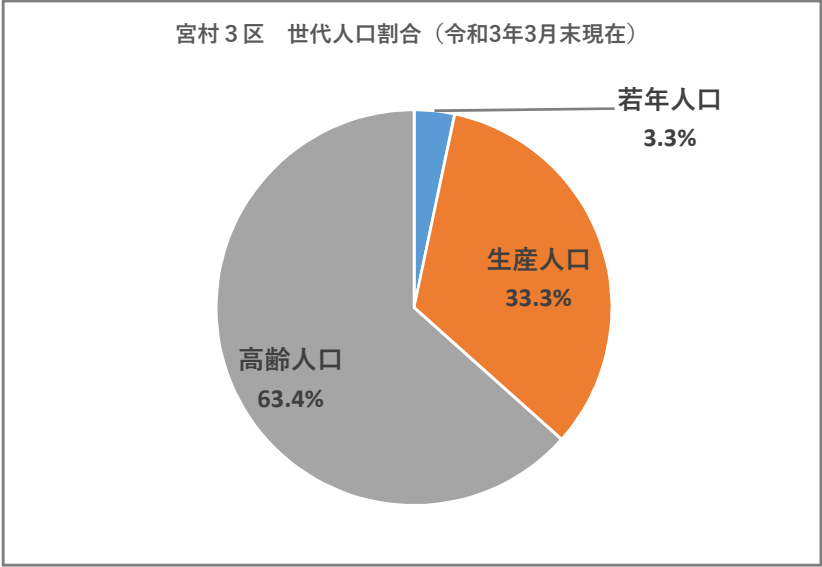
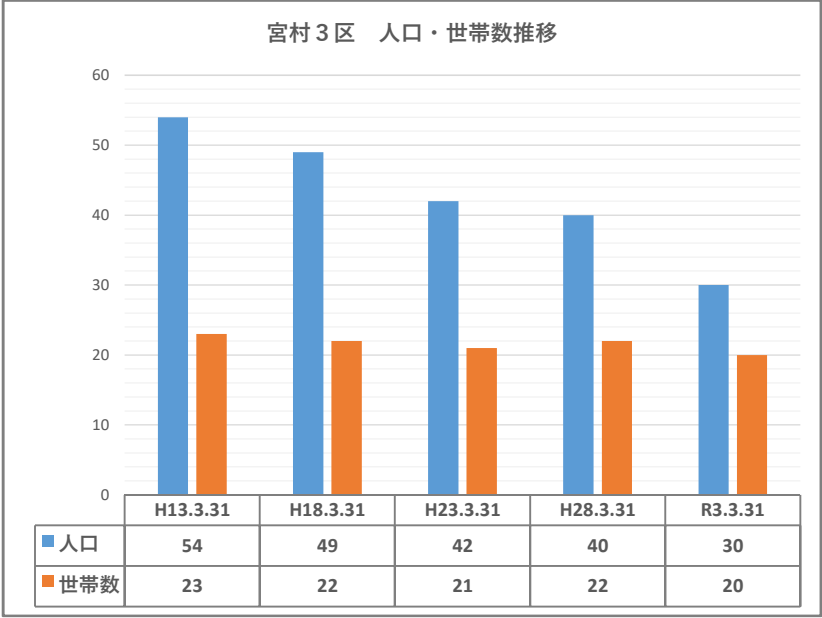
宮村1区 人口関連グラフ



宮村2区 人口関連グラフ



宮村3区 人口関連グラフ



3 地域の活動情報

地域活動（一覧表）

	宮村連合区	宮村1区	宮村2区	宮村3区	宮村友鶴会	子ども会					
福祉											
健康づくり											
親睦・交流	●	●									
防災											
防犯	●										
青少年育成						●					
交通安全											
除排雪											
環境美化	●										
地区会議	●	●		●							

地域の主な活動団体	
■連合区 ・宮村連合区	
■町内会 ・宮村1区 ・宮村2区 ・宮村3区	
■老人クラブ ・宮村友鶴会	■子ども会 ・東町地区と合同で活動
■	■

公共施設・地区会館等
・宮村連合会館

【福祉】（独居老人への声掛け、訪問、敬老事業等）

時期	事業名・活動内容等	活動団体

【健康づくり】（スポーツ大会、運動教室等）

時期	事業名・活動内容等	活動団体

【親睦・交流】

時期	事業名・活動内容等	活動団体
4月	豊穰祈願祭（地域代表が参加）	宮村連合区
5月	宮村1区 花見	宮村1区
12月	新穀感謝祭（地域代表が参加）	
1月	宮村連合区 新年交流会	宮村連合区

【防災】（自主防災組織の設置、防災訓練等）

時期	事業名・活動内容等	活動団体

【防犯】（子どもの見守り、地域パトロール等）

時期	事業名・活動内容等	活動団体
7月	防犯協会定期総会	宮村連合区

【青少年育成】（子ども会活動、あいさつ運動等）

時期	事業名・活動内容等	活動団体
	※東町地区の子供会と一体的に活動している	

【交通安全】（街頭啓発等）

時期	事業名・活動内容等	活動団体

【除排雪】（ボランティア活動等）

時期	事業名・活動内容等	活動団体

【環境美化】（草刈、清掃、花壇整備等）

時期	事業名・活動内容等	活動団体
8月	集落センター大掃除	宮村連合区

【地区会議】

時期	事業名・活動内容等	活動団体
12月	定期総会	宮村1区
1月	定期総会	宮村連合区
3月	定期総会	宮村3区

4 地域の状況・課題

地域の状況

(連合区長・行政区長への聞き取り結果の多数意見)

- ・高齡化が進み、高齡者のみの世帯や独居世帯が増えたとともに、子ども達が少なくなっている。(宮村連合区の令和2年度末における高齡化率：60.4%)
- ・地区の役員が固定化してしまい、新たな担い手もない。
- ・空き地・空き家が増加している。

以上のことから、地区内で次の時代を担うべき子ども達が、生産人口の年代に入ると共に地域を離れてしまい、残された親(高齡者)世代だけで地域活動を担わざるを得なくなっていることが判るとともに、先細りしていく人口変化が空き家などの発生に結びつき、それが地域環境の悪化にも繋がっていると読み取れる。

- ・地域内での顔見知りが多くて住民同士の把握ができている一方で、人の関わりが希薄になった。
- ・地域活動に対する関心が低い。

以上のことから、地域内の殆どが顔見知りであるという一体感が残っているものの、高齡化の進行に伴ってそれぞれの外出機会が減少してしまうことなどが地域活動の停滞につながった結果、関わりが薄くなったと考えられる。また、地域から若い人がいなくなることで、いわゆる「新しい風」も吹かなくなり、結果として地域活動に対する関心が低くなっていることが読み取れる。

- ・地域内の交通の便が悪く、買い物などが不便。

以上のことから、住民の方々は、既に交通手段確保の面での負担を強いられていることが判る。

地域の人口の面から見ると、この地域を商圈とした小売業が成立するとは考えづらい上、1日数本しか無く、しかも宮村1区はフォローされていない町営バスしか気軽に使える公共交通機関が無いことから、自家用車を所有していない世帯は、いわゆる「買い物難民」になってしまう状況にある。

地域の課題

(連合区長・行政区長への聞き取り結果の多数意見)

- ・地域活動に参加する人が限られている。
- ・町内会の会員が少なく、役員が固定化されていると共に活動の維持が困難。
- ・町や各種団体から選出を依頼される委員等の選出が困難。
- ・世代間の交流が難しい。
- ・新旧住民の交流が難しい。
- ・行事等がマンネリ化している。
- ・子どもが少なく、子供会行事が困難。

以上のことから、地域の高齢化の進行や人口減少が直接的に地域活動の停滞に結びついてしまい、その結果、マンネリ化が生じていると考えられる。

町全体を見ても人口減少が進んでいる中、この農業経営が主体であるこの地域においては、今後の人口増加は見込めないと考えられ、仮に新たに若い世代の方が転居してきたとしても、若年世代と高齢世代とのそれぞれの気質の違いをお互いに受け入れできる寛容さが無ければ、世代間であったり新旧住民との間でのすれ違いに繋がると考えられ、これは、この地域のみの問題ではない。

また、既に親子の世帯間においてさえ、距離感を保つようにしている世帯が増えていると考えられる状況にあることから、親子という家族の在り方も含んだ世代間ギャップをどのように融和させていくか考えていく必要がある。

子ども会行事の実施に関しては、既に隣接する東町地区の子ども会と一体的な活動に移行しているが、そもそも日本中で少子化が進行している中、仮に地域の若年人口・若年世代が多少増えたとしても、東町・宮村地域での子ども会が今後も現在の形態のまま存続できるとは考え難く、子ども会組織が健全な青少年の育成に果たす役割の大きさを考えると、このことへの対応は極めて重要である。

- ・ 空き地棟が管理されてなく不衛生な場所がある。
- ・ 倒壊の危険性がある空き家がある。
- ・ 空き家が多く防犯上の不安を感じる。

以上のことから、「地域の状況」でも触れたとおり、地区内で次の時代を担うべき子ども達が、生産人口の年代に入ると共に地域を離れてしまったり、離農者の発生に伴うことでもあり、地域を継続する観点から考えると、単に空き家対策を講ずれば良いというものではない。

- ・ 個人情報の問題があり、家庭に入りにくい
- ・ 要援護者等の把握が困難。

以上のことから、個人情報保護の観点と関わることであるものの、地域における人と人との交流が維持・促進されることが解決への糸口になるとも考えられる。

宮村地域に限らず、奈井江町全般・農村地域全般に対して言えることと思われるが、地域に住む者の力だけでどうにもならないところについて、行政として法律等の規定を遵守しつつ必要な情報が提供できる仕組みが求められている。

課題を解決するために必要なこと

・皆が「地域の一員」になる仕組みづくり

地域活動や町内会業務の推進にあたって、現役員の方は、「将来これらを担ってくれる方の苦労を少しでも減らすため、（自分達が）動ける内は、私らがやっていくんだ…」と言っているものの、この意識だって永久に継続できる訳ではない。

役員の負担低減のためにも、地域に住む方々は、「他人まかせ・役員まかせ」にするのではなく、日々の近所付き合いから発展した形で地域に一員として自らが住む地域に関心を持ってもらうことが必要である。

世帯の構成年齢が下がるほど「プライバシー」が重視される傾向にあると考えられるが、「過干渉」にならず、でも地域の一員としての感覚が醸成されるように誘導する仕組み作りが必要である。

・「地域」の再編に向けた検討と条件整理

町内の各行政区が現在の形になってから、既にかかなりの年月が経過している。

この間、町の全体を見ても、この地域だけを見ても、「地域・町内会」の構成要素である人口が大きく減少していることから、地理的・歴史的な背景は踏まえつつも、現在の行政区の枠組みにこだわらずに、地域の再編に向けた検討も排除しないで考えるとともに、再編に必要な条件の整理も進めることが必要である。

・「地域」と「行政」との適度な距離感の確保

地域において住む者同士が適度な距離感をもって暮らせることで、それぞれが「地域の一員」との意識が持てるようになったり、適度にお互いの情報を持ち合うことに繋がると思われ、その結果、行政からの情報提供を最低限に抑えることができるようになるのではないかと考えられる。

また、行政から依頼している回覧等の配布業務や各種役員の割り当ても、共働きの家庭が増えた中では負担に感じている方も多いと考えられることから、必要なことは残しながらも、過去を踏襲し続けるのではなく、見直しをすすめることが必要である。

・就労先も含めた「奈井江地域」の魅力度の向上

全国的に都市部への人口集中が続く中において、当町でも就職・進学に伴い若年層が流出するのを防ぐことはかなりの難問であるが、今後も対策を検討し続け対策を行っていくことが必要である。カンフル剤のように効果がすぐ現れるものはあり得ないため、奈井江にある資源（自然環境・地場産業・誘致企業など）に紐づけした魅力度の向上策を考え続けることが必要である。